

# ラクトコーダを活用した 搾乳技術改善手法の確立

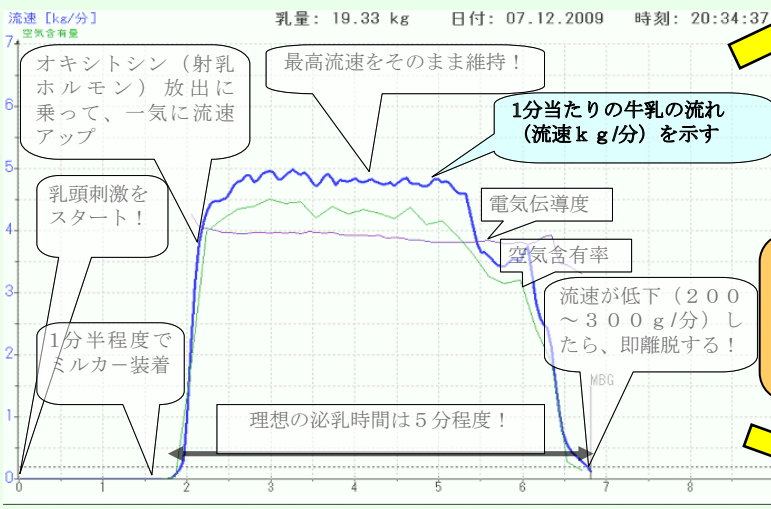
【背景・目的・成果】酪農家にとって乳質改善は日々向上が求められている課題です。特に衛生的乳質の指標である牛乳中の体細胞数を低減させるためには、搾乳技術の向上が必要です。「ラクトコーダ」は乳量や乳質サンプリングだけでなく、牛乳の流速や電気伝導度なども計測記録することができる電子ミルクメーターです。平成21年に兵庫県酪農農業協同組合連合会が導入したラクトコーダを活用した搾乳技術改善手法を、現場での調査研究をもとに確立し関係指導機関への普及を図っています。

## 1 現場でのラクトコーダ調査研究(専門技術員、普及指導員)



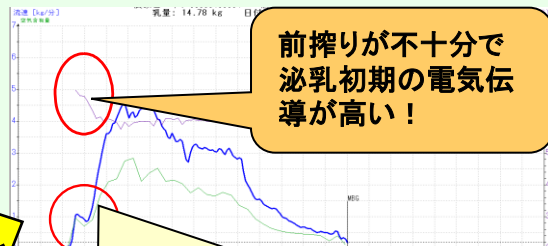
「ラクトコーダ」は電子ミルクメーター

モデル農家での実証データを分析



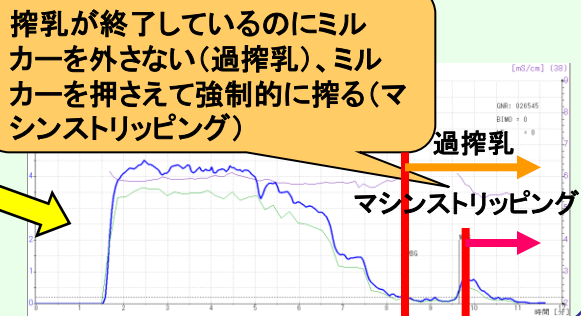
理想的な搾乳中の流速波形グラフ

### 搾乳前作業に問題のある流速波形



乳頭刺激不足、ミルカー装着タイミングが早すぎるため、泌乳スタート後の流速が遅くて不安定!

### ミルカー離脱に問題のある流速波形



## 2 指導者養成研修会の開催 (普及指導員、家保職員、農協職員)



兵庫県酪農振興協議会で「ラクトコーダ作業部会」を発足させ、指導者の技術向上を目指す。

## 3 普及拡大(現地活用事例)



活用事例  
・西播地域: 関係機関が乳質改善指導チームを結成し搾乳技術指導を実施  
・北播磨地域: JA酪農部会が部会活動として全戸でラクトコーダによる搾乳技術の検証を実施

ラクトコーダで搾乳技術で検証した酪農家  
48戸(延べ105回)(H21年11月~H23年8月現在)

【技術の活用】搾乳技術改善を効果的に実施するためには、ラクトコーダの測定データだけでなく、指導担当者の「目」で見た観察評価も考慮して、現場に応じた改善を進める必要があります。また問題点改善後の効果を検証する目的での活用も進めていきます。